寄付金付 絵入り年賀はがき

全国各地の郵便局で販売する全国版と、各地方限定での販売となる地方版があります。地方版は各地域の景勝地や公式マスコットキャラクターなど特色のあるデザインとなっています。

全国版（販売価格68円、内寄付金5円）

地方版（販売価格68円、内寄付金5円）

寄付金付 お年玉付年賀切手（お年玉くじが付いた年賀切手）

63円切手（販売価格66円、内寄付金3円）

84円切手（販売価格87円、内寄付金3円）

日本郵便は、寄付金付「年賀はがき・年賀切手」を通じて、
皆さまからのお預かりした寄付金を大切に社会に役立てていきたいと考えています。
ご購入いただくことで、気軽に寄付活動に参加することができます。
新年のごあいさつには、ぜひ寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご利用ください。

日本郵便　年賀寄付金

●この冊子は環境に配慮した用紙を使用しています。
●印刷工程では、植物油インキを使用し、有害廃液を出さない水なし印刷方式を用いています。

発行日：2021年12月
発行元：日本郵便株式会社

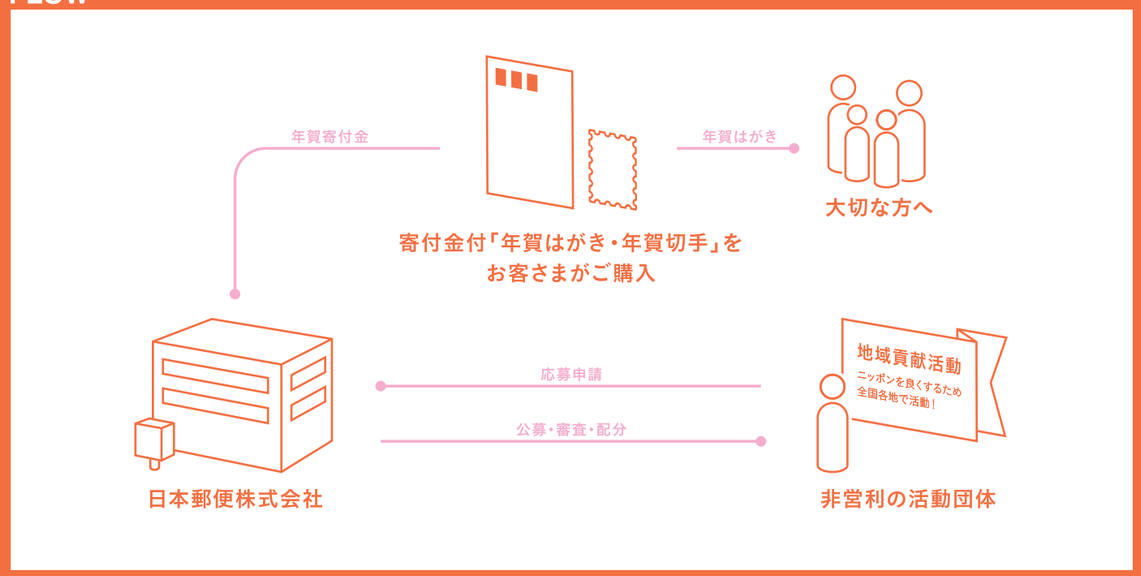
ANNUAL REPORT
KIFU-NENGA JAPAN POST

日本郵便 年賀寄付金配分事業活用事例集

年賀寄付金配分事業とは

全国の皆さまに寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご購入いただくことで寄せられる寄付金を日本郵便がお預かりし、「お年玉郵便葉書等に関する法律」の規定に基づき、総務大臣の認可のもとに毎年配分を行っています。1949年にはじまり、これまで72回配分を行っています。寄付金による配分額は、これまでに合計で約516億円にのぼります。

FLOW



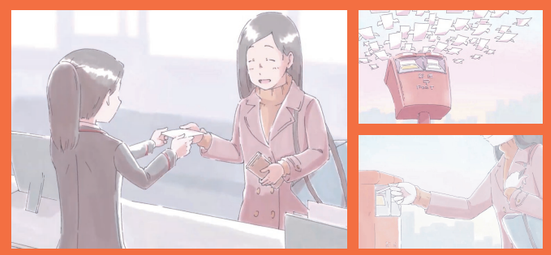
CATEGOLY

10分野の事業を行う団体に公募し、外部有識者による委員会が配分する団体や配分金額の審査を行っています。

- 社会福祉の増進
- 青少年の健全育成のための社会教育
- 地球環境の保全
- 健康保持増進のためのスポーツ振興
- 開発途上地域からの留学生・研究生の援護
- 風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防
- 交通事故、水難の救助・防止
- がん、結核、小児まひなどの研究・治療・予防
- 原子爆弾の被爆者への治療・援助
- 文化財の保護

MORE

本事業を紹介するアニメーションをWEBサイトで公開しています。ぜひご覧ください。



日本郵便年賀寄付金

https://www.post.japanpost.jp/kifu/

ABOUT

マイクロプラスチックゼロへ ウミガメが産卵する海岸を市民の力で守る

地域：静岡県　**助成金額：3,492,930円**　**団体：NPO法人サンクチュアリエヌピーオー**　**カテゴリ：地球環境の保全**

地球規模で広がる海洋プラスチックゴミの問題。風雨や波にもまれ、小さくなったプラスチック片が海の生き物の体内に入ってしまうケースも。海岸の動植物保護調査活動を35年にわたって実施してきたサンクチュアリエヌピーオーは、本助成金を活用し海岸にゴミ箱を10基設置。マイクロプラスチックになる前にプラスチックゴミを早期回収する仕組みをつくり、地域に浸透させることにつなげた。

ウミガメを守るため、プラゴミを放置しない、増やさない。

海岸の環境保護活動に取り組む中で、海岸に打ち上げられたオサガメのお腹の中から、36枚ものプラスチックゴミが見つかるショッキングな事実に直面。さらに、海岸は車乗り入れや大量のゴミで卵がつぶれたり、子ガメが砂浜で息絶えている状況が続いていたことを受け同会は調査と保護活動をスタート。保護柵を設置し、毎年観察会・放流会の開催を通して、地域住民や観光客、子ども達への環境教育を行った。月2回ビーチクリーンアップも開催している。

ゴミ箱を10基設置。回収量は1t/月に。

行事として月2回しか行わないゴミ拾いイベントでは翌日には元どおりになっていた。そこで、毎日ゴミ拾いができるよう、本助成金を活用して海岸にゴミ箱を10基設置。すると、散歩する住民やサーファー、観光客が自発的にゴミを捨てるように。今では毎月1トンのゴミを回収できている。ゴミ箱設置というシンプルな仕組みが地域住民や観光客の意識と行動を変え、マイクロプラスチックゴミ削減につながる大きな一歩となった。

理事長
馬塚丈司さん

ビーチクリーンアップは定期的に開催していますが、それだけでは問題が解決しないと考えています。「ゴミ拾いのための」ゴミ拾いでは継続が難しく、一人ひとりが自然を体感し、ゴミがあることの問題を深く理解することが大事です。海に暮らす動植物がどんな環境に身を置いているのかを知り、そこに生きる自然や動植物に興味を持って感動することで、自発的に拾いたくなるような心の動きが起こるようなセミナーや体験会を目指しています。

鉄道観光資源としてよみがえれ！愛岐トンネル群

地域：愛知県　助成金額：3,838,429円　団体：NPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会　カテゴリ：文化財の保護

かつてはSLも行きかった明治時代の廃線跡が市民の手で発見されてから、現在まで保全活動を行ってきたNPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会。階段や遊歩道の整備、落石を防ぐフェンスや機械の燃料費などで年間300万円の資金が必要だった。水洗トイレの配備や備品購入など環境整備に本助成金を活用し、観光名所としての基盤を固めた。

観光資源化を目指し、自然と文明が共存する歴史遺産に。

当初はやぶが生い茂って数歩進むのも困難な状態だったが、絶滅危惧種の貴重な動植物がたくましく再生していたという。ゆっくりと自然に還っていく人間の文明といにしえが共存している風景を残すため、最低限の伐採と草刈、道づくりだけを行い丁寧に整備してきた。45年間眠りについていた廃線が、市民活動の力で情緒ある歴史観光遺産として生まれ変わった。

特別公開に3万人が来訪。

年2回の一般公開を始めると、徐々に認知が広がりこれまでに全国から延べ25万人が来訪。旅愁をかきたてるトンネルのたたずまいに来訪者は毎年増えていったが、15ヘクタールの敷地全体を維持管理するには、市民の力だけでは限界があった。そこで本助成金を使って環境を整備し、あわせて、ポスターとリーフレットを作成してJR東海のすべての有人駅に設置した。そのかいあって、2019年度には春と秋の特別公開で計3万人の来場者を記録した。

理事長
村上真善さん

地域や全国での認知を高めるため活動を開始して14年。「国・登録有形文化財」に認定されたり、来場者も年々増えるなど、メンバーの努力が実っていることをうれしく思っています。一方で、この歴史遺産を100年後も残すために、永遠に市民活動として続けるわけにもいかず、外部団体や企業、行政との連携が今後の最大の課題となります。観光資源の保全活動を事業として仕組み化できるよう、広域連携を進めていくことが今後の目標です。

「会えるまで出直す」お弁当宅配で高齢者の孤独死を減らす

地域：岡山県　助成金額：300,000円（3年目）　団体：NPO法人おかやま多機能サポート　カテゴリ：社会福祉の増進

核家族化などを背景に一人暮らしの高齢者が増える中、NPO法人おかやま多機能サポートネットでは、認知症の方、家事が苦手な方、障がいを持った方など、食事づくりや外出が困難になった地域の高齢者を中心に、日々の安否確認を目的に直接手渡しにこだわったお弁当配食事業に今回の年賀寄付金を活用している。

配食数2,074食

笠岡市で高齢者の孤独死が発生したことをきっかけに、安否確認を目的にしたお弁当配食の必要性を強く感じ本事業をスタート。週3回の配達で1日おきに顔を合わせる状態をつくり、手渡しできるまで何度でも訪問するようにしている。夜まで会えない場合は申込時に記載の連絡先に確認をとるように。配達員が異常を感じたら帰所後に情報を共有。過去には医師につなげて事なきを得たこともある。独居高齢者の中には介護保険の点数不足で介護サービスを受けれず1人で過ごす日が多い方もいるなか、お弁当配食時の安否確認が、制度のはざまに生まれる「見えないニーズ」との有用な接点となっている。

食べることの楽しみを感じてもらいたい。

利用者にはあらかじめ、持病はもちろん、食の好みや飲み込みやすい大きさを聞き取り、一人ひとりの希望に応じている。また、「食べることの楽しみ」を毎日の生活の中で感じてもらいたいという想いで、パウチの食材ではなく、栄養士による新鮮な食材を使ったおいしそうなお弁当を届けることにもこだわっている。

理事長
池田美枝子さん

利用者の中には配達員と会話することが楽しみと話してくれる方も。当初はニコリともしなかった男性高齢者の方が、だんだん笑顔の日が増え、お互いを気にかけあう場面も見られるようになりました。配達員と信頼関係ができ、さまざまな相談事を受けるようになって問題の把握をできるようになったことも支援を続けるうえで大きな成果でした。把握した問題をさまざまな福祉関係者と共有し連携の裾野を広げていきたいと考えています。

難病患者と支援制度をつなぐ環境整備

地域：滋賀県　**助成金額：389,308円（4年目）**　**団体：NPO法人滋賀県難病連絡協議会**　**カテゴリ：社会福祉の増進**

治療が難しい症状を持つ難病患者には、いまだ社会参加への壁や周囲からの偏見が残る。滋賀県難病連絡協議会は、各種支援制度や助成金の存在を知らず、困難な状況に身を置いている難病患者が県内に多くいることを課題として捉え、患者自身が自発的に支援制度と接点を持てるようセミナー実施や冊子を作成し、社会資源にアクセスしやすくなる環境整備を行った。

難病患者が人知れず直面していた困難な状況。

難病患者の中には、県内に一人しかいない症例で周囲に理解を得られず孤立を深める人も。社会認知も低く支援が行き届いていない現状があった。同会は実態調査を開始。難病患者の多くが医療費助成制度や障害福祉サービスといった支援制度の情報を知らずに、生活や就労に問題を抱えている実態が明らかになった。闘病中であることを伝えると採用に至らないケースや、進行性の難病の場合「これまでできていた作業ができなくなるのでは」と不安を抱える患者も多い。

就労支援のしおり 800冊作成

制度の情報を冊子にまとめて読みやすくし保健所や医療機関に配布。難病診断を受けた患者に早い段階で有益な情報を提供できるような体制を整えた。さらに「就労支援セミナー」を実施。難病患者22名が参加し就労支援制度などの情報に触れた。あわせて「就労支援のしおり」として冊子を800部作成。保健所や医療機関、社協など合計40の機関に配布し、患者が情報にアクセスしやすい環境と支援基盤の整備につながった。

理事長
西村幸祐さん

就労支援セミナーに厚労省の滋賀労働局の担当者が出講したり、関係機関と一緒に検討会を実施するなど、市民主体の活動が県や国の機関との共通理解を図れたことは大きな成果となりました。数少ない専門の医療機関しか頼るところがない難病患者にとっては、地域の公的な機関で、気軽に個別相談できる場所があるということが安心材料となり、就労や生活の活力になります。今後も協力体制を強化していけるよう活動を進めます。

修繕で安全確保し、子どもがのびのび遊べる古民家空間へ

地域：岡山県　**助成金額：2,061,000円**　**団体：NPO法人赤磐子どもNPOセンター**　**カテゴリ：青少年の健全な育成のための社会教育**

赤磐子どもNPOセンターは、育児相談などを行う交流拠点である子育て支援センターの運営を通して子どもたちが心身ともに豊かな成長を図るための体験活動を行っている。築150年を超える古民家を活動の拠点としているが、経年劣化と災害の影響で屋根瓦にずれが生じ、雨漏りや落下の危険性があったため本助成金を活用し改修工事を実施した。安全が確保され再び多くの人が利用している。

日本家屋ならではの“不便さ”が子どもの成長に作用する。

もともと公民館の一室で運営していた子育て支援センターだったが、保護者や子ども達が「おばあちゃん家」に遊びにきたような感覚でリラックスできる空間をめざして現在の古民家へ。伝統的な日本家屋には段差があったり開けにくい扉があるなど、ちょうどいい不便さの体験が子ども達の豊かな感性を育てる。

子どもたちに危険がないようにするため、柱や床のささくれや危険個所などを全て修復してオープンに至ったが、老朽化で毎年何らかの修繕が必要となる。本助成金で修繕費を賄えたことで、保護者や子どもが安心して利用できる古民家を維持することができた。年間利用者数は、前年度の3,730人から4,150人に増加した。

年間利用者 +420人

事務局長
国正恵美子さん

安全性の確保や家屋全体のメンテナンスが必要な古民家ですが、保護者の方や子ども達にリラックスしてもらいたいと1年以上かかって探しあてました。ぬくもりある空間で気持ちも落ち着き、相談しやすいという声を保護者の方からいただきます。今後は、子育て支援にとどまらず「陽なたぼっこ」が世代を超えた人々が集まる地域の拠点となるよう、コミュニティカフェやイベント開催など、活動の幅を広げていくことを目指しています。

厨房機器を購入
加工品を自社製造で工賃アップ

地域：大阪府　助成金額：3,750,000円　団体：NPO法人街かど福祉　カテゴリ：社会福祉の増進

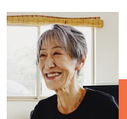
NPO法人街かど福祉は、障がい者自立支援を目的に就労継続支援事業を開始。しかし事業収入に限界があり、工賃が向上しない現実に直面。そこで事業収入増加を目指してA型就労施設でのしいたけ栽培と生しいたけの販売を開始し、生産が安定した段階で、更なる工賃アップを目指してしいたけの加工品自社製造と販売に挑戦することに。自社製造に必要な設備購入に本助成金を活用し、工賃アップや廃棄率削減など大きな成果が上がった。

アヒージョ製造時間が1/3に。

A型就労施設で生産していた生しいたけは売上が安定しづらく、工賃アップにつながらなかった。そこで、加工品「しいたけアヒージョ」の自社製造に挑戦することを決めた。何度も試作を行うも、施設にある設備は鍋と炊飯器だけ。1回の作業に15時間を要した。また鍋と炊飯器では瓶が破損しやすく作業の難易度が上がるなど、利用者の作業の幅が狭まった。そんな中、スチームコンベクションオーブンと急速冷却器を導入することで3分の1の時間で製造可能に。作業が標準化されたことで利用者の作業の幅も広がり、商品は一定の品質を保てるようになった。

工賃 +28,876円/人

アヒージョの原材料に、これまで廃棄していた「しいたけの芽」をいれることで、栽培所の廃棄率が90%削減。また、自社製造が可能になったことで原価率削減も同時に実現。工賃は、73,684円から102,560円と4割近くアップ。さらに、簡単な作業を同団体が運営するB型就労施設にも発注することで、そちらも同時に工賃が2割アップするなど、副次的に成果が上がっていった。



代表理事
豊田みどりさん

利用者さんは、自分たちがつくった商品をスーパーや百貨店でお客様が購入してくださっている様子を見てうれしそうでした。みんなの自信や達成感につながっています。ここで得た技術や働く喜びを活かして、自立に向かってどんどんステップアップしていってほしいと思います。また、新たに、これまで他業者から購入していた生しいたけの菌床づくりを開始しました。菌床の販売と収益化を実現させて生しいたけの品質改善・向上、更なる工賃アップと新規雇用を生むことを目指していきます。

トラクター新規配備で収穫量増加
野菜の実り方にも変化

地域：和歌山県　助成金額：960,000円　団体：社会福祉法人みなべ町社会福祉協議会　カテゴリ：社会福祉の増進

アルコール依存症や障がいのある人の緩やかな就労体験の場づくりとして、農作物を栽培・収穫して直売所などで販売する事業を行っているみなべ町社会福祉協議会は、本助成を受けて農園で使うためのトラクター1台を購入した。トラクター活用によって農園の土壌環境と作業効率が大きく改善し、野菜の質が上がることで現場が活気づき、利用者に新たなやりがいが生まれた。

作業時間1/8で収穫量増加。野菜の出来にも変化。

当初は家庭菜園用の耕運機を使って1日がかりで土を耕していたが、トラクター配備で土づくりの作業が1時間に短縮。作業効率が上がり300㎡の畑を新たに扱えるようになったことで収穫量が139kg増加した。また、トラクターで土を撹拌することで、空気を含んだ柔らかい土壌になり、堆肥がなじみやすく肥えた土に変化。ピーマンは大きくジューシーに、キャベツはぎっしり葉がつまるようになった。それを見た利用者の農業に対する興味が深まり、指示待ちだった作業を自主的に行うようになる場面が増えた。

栽培品目が増え、利用者にやりがいが芽生えた。

産直販売所でこれまで扱いがなかった野菜も実験的に試してみたところ、あっという間に売り切れることも。自分たちの作った野菜がどんどん手に取られていく姿を見て、利用者も顔をほころばせている。販売帰りの車の中は農業の話題が飛び交う。扱える品種が増えたことで、誰かに喜んでもらう「働くことの醍醐味」を味わえる機会も増えた。

事務局
土井郁夫さん

作付けする野菜がどんどん増え、直売所やメーカーから注文が入るようになりました。そのことを利用者に共有すると「よっしゃ、やろか」と前向きな姿勢で取り組むように。農園での経験を糧に次のステップに踏み出す利用者も。自ら求人情報を探してきて見事採用され就労に至った方もいます。当初は緩やかな農業サロンとしての位置づけで始まった事業ですが、就労支援事業として収益を利用者に還元できるようにステップアップしていきたいです。

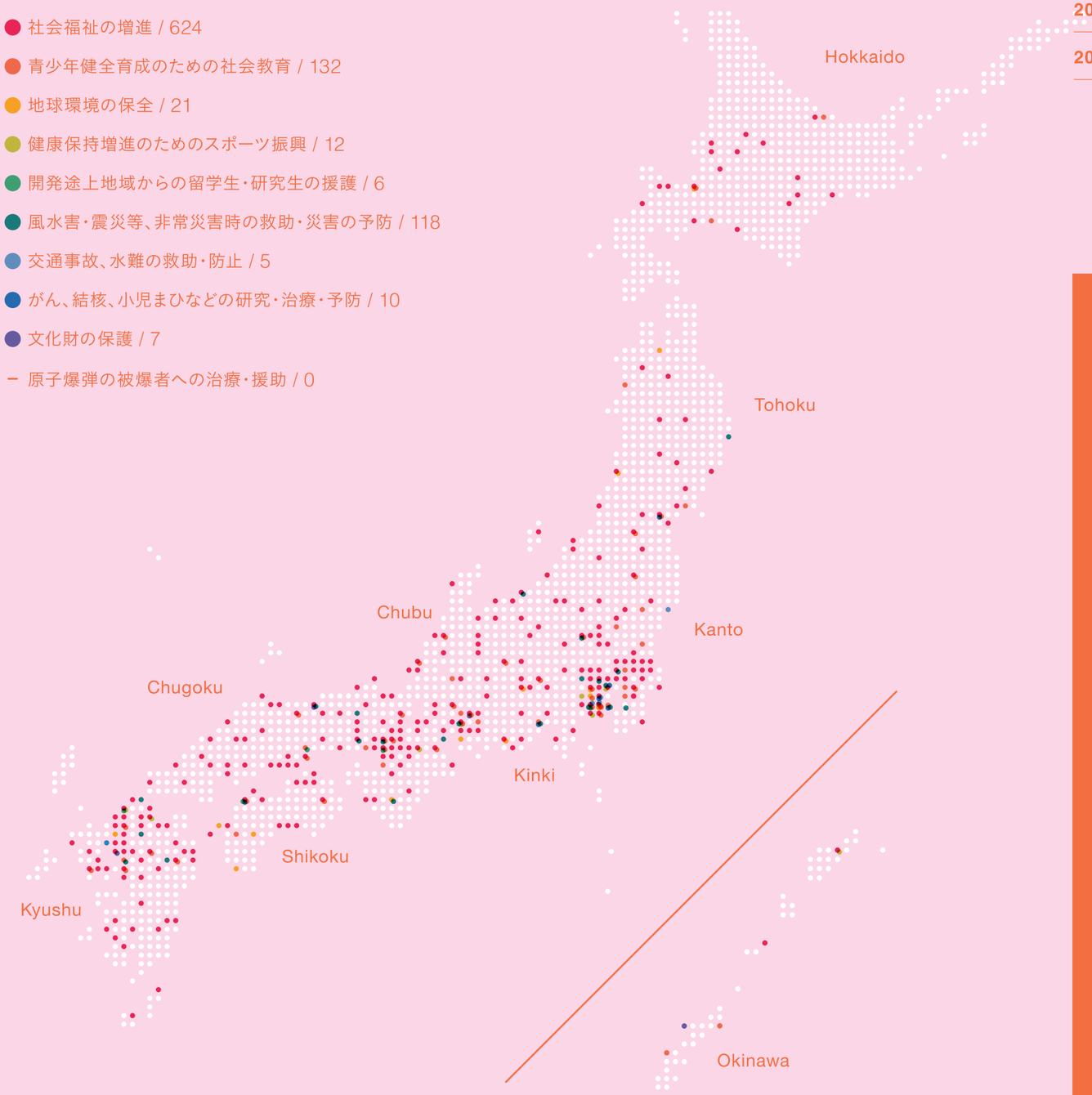
ACTIVITY 2017-2021

日本郵便年賀寄付金配分事業では、これまでさまざまな地域貢献活動に助成を行ってきました。そこで、2017年から2021年までの５年間で助成事業が行われた地域をカテゴリごとにマッピングし、活動の広がり方を可視化しました。

※同地域で複数の活動が行われた場合には、一箇所としてマッピングしています。

カテゴリ/５年間の助成事業数

- 社会福祉の増進 / 624
- 青少年健全育成のための社会教育 / 132
- 地球環境の保全 / 21
- 健康保持増進のためのスポーツ振興 / 12
- 開発途上地域からの留学生・研究生の援護 / 6
- 風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防 / 118
- 交通事故、水難の救助・防止 / 5
- がん、結核、小児まひなどの研究・治療・予防 / 10
- 文化財の保護 / 7
- 原子爆弾の被爆者への治療・援助 / 0



	申請団体数（団体）	配分団体数（団体）	助成総額（円）
2017	820	232	434,214,000
2018	846	175	300,701,000
2019	734	182	297,525,000
2020	643	169	296,431,000
2021	504	177	310,539,000

年賀寄付金評価委員会 委員長あいさつ

川北秀人

年賀寄付金評価委員会 委員長
IIHOE［人と組織と地球のための国際研究所］代表者

動くこと、会うこと、集まること。くらしや健康、心の安全のために大切なことを、感染拡大防止のために見送らざるを得ない日々が、２年にわたって続いています。ご苦労をされたみなさまに心からお見舞い申し上げるとともに、ご尽力くださっている方々に深く感謝申し上げます。

こんなときにも、むしろ、こんなときだからこそ、地域などで助け合うことは、これまで以上に大切です。ここに紹介されたものをはじめとして、たくさんのご申請の中から採択された団体が、皆さまからお預かりした寄付金を大切にいかしながら、全国各地で、感染症対策を施しつつ活動を積み重ね続けてくださっていることにも、心から敬意を表します。当初の計画どおりに進めることが困難な中で、目標を保ちつつ、柔軟に判断・対応しながら活動を続けてくださったことにも、深く感謝いたします。

厳しい日々を過ごされたがゆえに、みなさまが年賀状に込めた思いや願いは、きっと例年よりも深く募っていらっしゃることでしょう。そんな心や気持ちがこもった年賀状で、人々のくらしや自然を守る活動を支え続けてくださることに、心からお礼申し上げるとともに、みなさまが安心してその活動の現場を訪れ、参加していただける日が、一日も早く訪れることを願っています。